

尾瀬国立公園（仮称）の指定及び公園計画の決定について

1 指定理由

日光国立公園の尾瀬地域は、我が国を代表する山地湿原である尾瀬ヶ原や尾瀬沼、その後背に位置する燧ヶ岳や至仏山の山容等が一体となった極めて自然性が高く多様な景観を有するとともに、自然とのふれあいの場として多くの人々に利用されている地域である。

昨年度環境省が実施した「尾瀬の保護と利用のあり方検討会」において取りまとめられた「尾瀬ビジョン」では、自然環境が尾瀬地域と同様と見られ、文化・伝統・利用の面からも尾瀬地域と深いつながりがある会津駒ヶ岳や田代・帝釈山地域を公園区域に含め、尾瀬地域と一体として保護していくことが必要とされた。

会津駒ヶ岳及び田代・帝釈山の周辺地域は、山地湿原が点在し、オオシラビソ林が優占する自然性が高い地域であり、これらの地域と尾瀬地域を併せた一連の地域は、景観の連続性、植生等の自然環境の同一性及び利用の一体性を有するとともに、一の国立公園たり得る規模を有している。一方、当該地域と、隣接する日光国立公園の日光地域は、植生が異なるほか、地形、景観及び利用状況の点からも特質の異なる地域であるといえる。

このため、当該地域を新たに一つの国立公園の区域として指定することとし、一体的な管理運営体制のもと当該地域の風致景観の保護及び適切な利用の推進を図るものである。

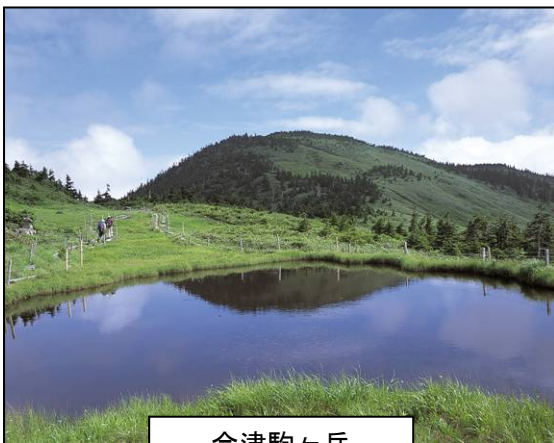
2 地域の概要

(1) 景観の特性

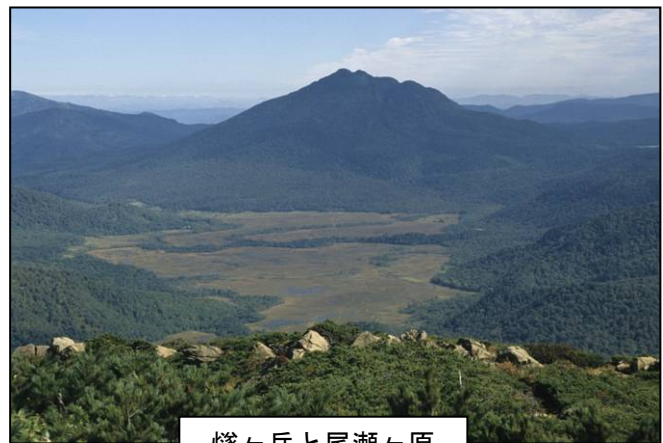
ア 地形・地質

我が国を代表する典型的な山地湿原でありかつ本州最大の面積（760ha）を有する尾瀬ヶ原と、火山堰止湖である尾瀬沼（180ha）を中心に、大江湿原やアヤマメ平等の成因、規模の異なる湿原を2,000m級の山々が取り囲んでいる。また、尾瀬ヶ原・尾瀬沼一帯を源とした只見川は、平滑の滝、三条の滝等の瀑布景観を形成している。

北部には会津駒ヶ岳、東部には黒岩山、帝釈山、田代山等、それぞれ2,000m級の山稜が連続している。



会津駒ヶ岳



燧ヶ岳と尾瀬ヶ原

イ 植生

現日光国立公園尾瀬地域には、海拔約1,000mから2,360mまでの間にブナを中心とした山地帯、オオシラビソ、トウヒ、ダケカンバ等が生育する亜高山帯、ハイマツの生育する高山帯が見られるほか、地形や気候等の影響による湿原植生、拋水林、お花畑等が見られる。

また、その北部の会津駒ヶ岳周辺、東部の黒岩山、帝釈山、田代山周辺には、ブナを中心とする山地帯、オオシラビソを主体とする亜高山帯、山頂部の湿原植生等、現日光国立公園尾瀬地域と共通性の高い植生が見られる。

ウ 野生動物

当該地域は、北方系／南方系、太平洋型／日本海型の接点に位置することから、植物同様、多様な動物相が形成されており、ツキノワグマ、カモシカ等の大型哺乳類が見られる。

(2) 利用の現況

当該地域の利用は、自然探勝、登山、ハイキングを目的とするものが中心である。一般の利用は5月中旬から10月下旬までのほぼ完全な三季型になっており、なかでも春のミズバシヨウの季節、旧盆を中心にした夏休み期間中及び紅葉の季節への集中が著しい。

現日光国立公園尾瀬地域の年間利用者数は、平成2～7年度まで50万人台前半で推移、平成8年度には過去最大の64万人を記録したが、その後減少が続き、近年では30万人台前半で推移している。

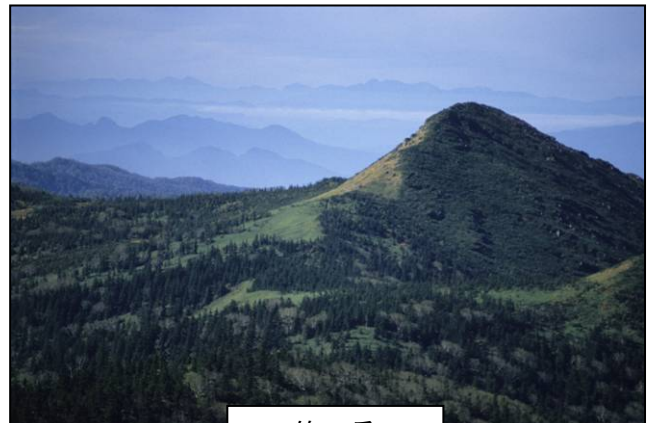
尾瀬ヶ原・尾瀬沼周辺への主な入山口は6カ所あるが、このうち尾瀬ヶ原への入山口である鳩待峠からの入山者が5割強、尾瀬沼への入山口である沼山峠が3割弱となっており、尾瀬ヶ原と尾瀬沼へのアクセスが容易な両入山口からの利用が大半を占めている。

3 公園区域

現日光国立公園尾瀬地域と、会津駒ヶ岳及び田代・帝釈山周辺地域（尾瀬の自然環境の特徴をなす山頂部に広く発達した山地湿原と自然性の高いオオシラビソ等の自然林が見られる地域及びその周辺地域）を公園区域とする。



大江湿原（秋）



笠ヶ岳

4 公園計画

(1) 保護規制計画 (別添図1参照)

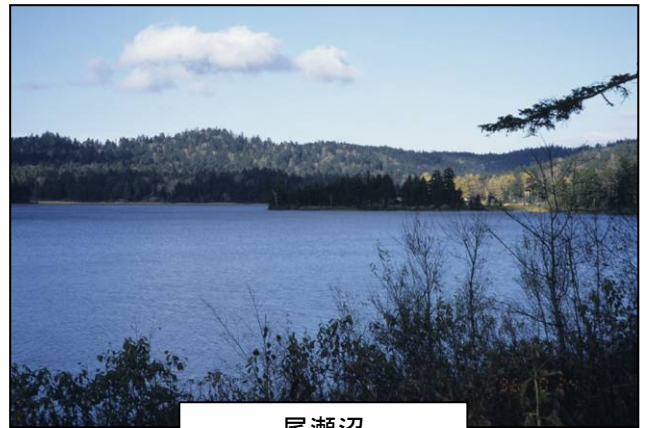
景観及び自然性に応じ地種区分を決定する。

ア 特別保護地区

- 尾瀬沼、尾瀬ヶ原を中心とする現日光国立公園尾瀬地域の特別保護地区は、現状のとおり特別保護地区として厳正な保護を図る。
- 燧ヶ岳の北面に点在する湿原と周囲の自然林は、特別保護地区として厳正な保護を図る。
- 会津駒ヶ岳及び田代山の山頂部等の湿原、雪田群落、袖沢上流部の多様性に富む森林植生等、特徴的な景観を構成している区域は、特別保護地区として厳正な保護を図る。

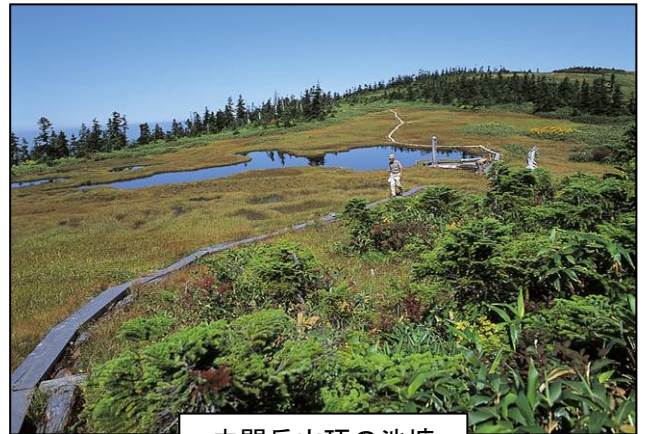
【代表的な地域】

- ① 尾瀬ヶ原、尾瀬沼及び燧ヶ岳山頂部
尾瀬ヶ原と尾瀬沼は、それぞれ我が国を代表する山地湿原、山地湖沼であり、周囲の燧ヶ岳、至仏山等の山稜と併せ、本公園の傑出した自然景観の核心をなす地区である。



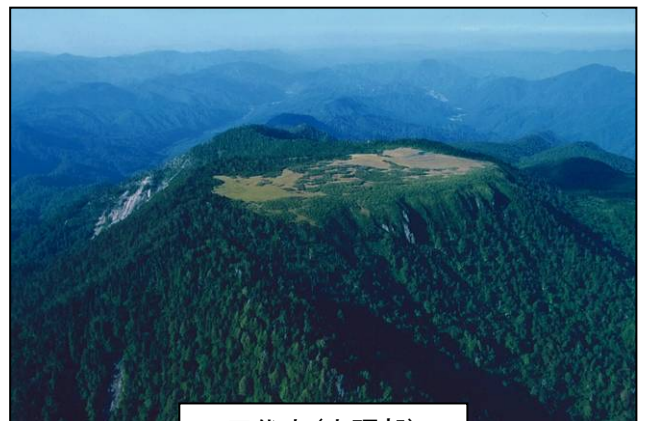
尾瀬沼

- ② 会津駒ヶ岳山頂部
会津駒ヶ岳山頂から中門岳にかけての南北稜線及び大戸沢岳にかけての東西稜線部の南側。多数の池塘を含む雪田草原が広く発達しており、ナンキンコザクラ等の高山植物や、ノビタキ、クジャクチョウ等の動物が見られる。また、遅くまで雪の残る斜面や凹地には、イワイチョウ群落が見られる。



中門岳山頂の池塘

- ③ 田代山山頂部
田代山山頂部に形成された高層湿原は、単一の台地上の傾斜湿原としては、世界的にも稀な存在であるとされる。高層湿原の極相的群落であるチャミズゴケ群落が見られる。また、山頂湿原を埋め尽くすキンコウカの大群落も、規模の点から見て特筆すべきものである。



田代山(山頂部)

イ 第1種特別地域

○特別保護地区周辺にあって、特別保護地区と一体となった景観を構成している優れた原生的森林や稜線部等の地域は、第1種特別地域とする。

【代表的な地域】

① 尾瀬ヶ原南部

当該公園の核心地である尾瀬ヶ原及び尾瀬沼の南部に位置し、オオシラビソを主体とする自然性の高い森林が分布している。尾瀬ヶ原及び尾瀬沼の背景としての一体的な風致を保全する上で重要な区域である。

② 会津駒ヶ岳北東部および南部

オオシラビソ群落が分布し、季節風と積雪の影響により矮化した特徴的な森林景観が見られるほか、斜面部には矮性化したミヤマナラを主とした自然低木群落が発達している。また、カモシカ、ヤマネ、オコジョ等の多様な野生動物が生息している。

③ 田代・帝釈山稜線部及び燧ヶ岳山麓

帝釈山、台倉高山、孫兵衛山、黒岩山、赤安山を結ぶ稜線一帯は積雪による影響が少ないため、自然性の高いオオシラビソ群落が山稜まで分布している。また、急傾斜地ではコメツガ亜群集、尾根部ではクロベータクナゲ群集、緩傾斜地や土壌の厚いところではカニコウモリ亜群集といった多様な下層植生が見られる。一方、燧ヶ岳北西部から沼山峠にかけての稜線部にも広くオオシラビソ群落が分布し、長池にはミズバショウやリュウキンカなどの湿性植物が生育している。

ウ 第2種特別地域

○利用上重要な車道沿道や主要な利用地点の周囲、並びに良好な状態で維持された自然林は、第2種特別地域とする。

【代表的な地域】

① 会津駒ヶ岳山麓及び御池、樺平

会津駒ヶ岳及び大杉岳周囲の山腹には日本海型のブナ林が広く分布しており、当該地域に典型的な樹林景観を形成している。また、樺平周辺にもブナ林が広範囲に分布しており、付近の車道からは美しい新緑と黄葉が堪能できる。

御池は公園利用上の主要道路の経由地及び起点となっているほか、燧ヶ岳、会津駒ヶ岳への登山利用拠点にもなっている。

② 田代山、帝釈山山麓

オオシラビソの中にコメツガ、トウヒなどが豊富に混交し、会津駒ヶ岳一帯とは異なる太平洋岸側の色彩が色濃い林相となっている。比較的標高の低い一帯には、気候的な極相と考えられるブナ林が広く発達している。

エ 第3種特別地域

○人工林を主体とした地域は、第3種特別地域とする。

【代表的な地域】

① 檜枝岐

檜枝岐村の集落に近い標高約1,300m以上の山麓地であり、ブナを主体とする自然林のほか、地域の生活・文化と密接に関連した多様な植生が見られる。

② 物見山、燕巣山、荷鞍山

稜線沿いの高標高部はオオシラビソ等が生育する亜高山帯の森林景観を呈しており、低標高部ではブナやミズナラ等の広葉樹林等が広がっている。本地区にはカラマツの造林地を含むが、カモシカ、ツキノワグマ、テン、キツネ等多くの中・大型哺乳類の生息地として足るだけの豊かな自然環境を有している。

③ 大行山、西山

ブナやミズナラ等の広葉樹林等が広がっている。本地区にはカラマツの造林地を含むが、カモシカ、ツキノワグマ、テン、キツネ等多くの中・大型哺乳類の生息地として足るだけの豊かな自然環境を有している。

オ 指定湖沼又は指定湿原

○当該地域の景観の核心をなす尾瀬沼及び尾瀬ヶ原を厳正に保護するため、指定湖沼及び指定湿原とする。

① 尾瀬沼

燧ヶ岳の噴火によって只見川が堰き止められて誕生した我が国を代表する山地湖沼で標高1,665mの高地にある。周囲約6km、水深は最深部で約9m。

② 尾瀬ヶ原

標高約1,400mに位置し、本州最大級。我が国を代表する山地湿原で、東西約6km、南北約1kmに及ぶ。豊富な湿性植物や池塘を有する。

(2) 保護施設計画 (別添図2参照)

ア 植生復元施設

○過去の不適切な利用やニホンジカの食害等によって生じたと考えられる湿原、高山植生等の損傷箇所については、「植生復元施設」を位置付け、適切な保護と復元を図る(田代山、会津駒ヶ岳、燧ヶ岳、尾瀬沼、尾瀬ヶ原、至仏山、アヤマ平)。

(3) 利用施設計画 (別添図2参照)

ア 集団施設地区

① 御池集団施設地区

尾瀬沼や尾瀬ヶ原への入山拠点であり、既に宿舎等の利用施設が集約的に整備されている。また、マイカー規制の基点となっており、適正な利用を図る上での拠点として重要な地区である。これらのことから、集団施設地区として維持し、適切な整備方針を定める。

② 尾瀬沼集団施設地区

利用動線及び利用実態から見て重要な拠点であり、今後とも宿舎等の利用施設が必要とされているため、集団施設地区として維持し、適切な整備方針等を定める。

③ 山ノ鼻集団施設地区

主に鳩待峠からの入山者にとって重要な利用動線であり、宿舎等の利用施設が最小限必要とされていることから、集団施設地区として維持し、適切な整備方針等を定める。

イ 単独施設

○利用実態から見て必要である施設又は現存し公園利用に用いられている施設について、事業実施の可能性や整備による風致景観への支障のないことを確認の上でふさわしい種別の計画を位置づける。

【代表的な計画】

① 沼山口園地

当該地域の核心地の1つである尾瀬沼への代表的な登山口であり、休憩所、トイレ、シャトルバス用の駐車場が整備されている。公園利用の動線上重要な地域。



ウ 道路

(ア) 車道

○入山口等までのアプローチとして現存し、利用されている車道を位置づける。

【代表的な計画】

① 御池沼山線

尾瀬沼への代表的な登山口である沼山口へ到達するアクセス道路である。マイカーや観光バスの通行は規制されており、御池から沼山口までシャトルバスが運行されている。

(イ) 歩道

○登山道や散策路として現存し、利用されている歩道を位置づける。

【代表的な計画】

① 燧ヶ岳登山線

御池から燧ヶ岳を経て尾瀬ヶ原に至る登山道。途中には熊沢田代等の湿原が広がり、燧ヶ岳山頂からは尾瀬沼や尾瀬ヶ原が一望できる。



② 赤法華鳩待峠線

七入方面から尾瀬の核心部を通過して鳩待峠に至る登山道。大江湿原、尾瀬沼、尾瀬ヶ原等、尾瀬を代表する湿原景観を探勝することができる。



(4) 公園面積

37,200ha (現日光国立公園尾瀬地域 25,203ha、新規指定 11,997ha)

(5) 地種区分

() は現在日光国立公園の尾瀬地域として指定されている区域面積, ha

	特別地域					普通地域	合計
	特別保護 地区	第1種 特別地域	第2種 特別地域	第3種 特別地域	小計		
面積	9,386	6,208	15,923	5,683	37,200	0	37,200
	(8,692)		(10,085)		(18,777)	(6,426)	(25,203)
%	25.2	16.7	42.8	15.3	100.0	0	100.0